

「JAF エアロビク競技・採点規則 2017-2020 公式競技」確認事項

1. 「リフトとコラボレーション」についての確認

- ① ルーティンを”静止したピラミッド”で開始する場合は、リフトとしてみなされず、コラボレーションとして認識する。“静止したピラミッド”とは、ベース（下で持ち上げる選手）の上にトップ（持ち上げられている選手）が乗っていて、動作が静止した状態を指す。
- ② 他の選手のサポートが入る実施（パートナーの助けを借りる）でのアクロバティック・エレメントは、アクロバティック・エレメントの実施数には数えない。また、その動作の高さに関わらず、リフトとはみなさず、コラボレーションとして認識する。
 - ☆ 他の選手のサポートが入らない状態（パートナーの助けを借りない）で、選手が自らフロアの上でアクロバティック・エレメントを実施している場合には、他の選手とのフィジカル・インターアクションの有無に限らずアクロバティック・エレメントとして認識する。

2. 「ユースの必修エレメント」についての確認

- ① ユース 2 の必修エレメントの 1 つである A374 ヘリコプター・トゥ・スプリットの着地は、サジタル・スプリットのみ。フロントル・スプリットでの着地はユース 2 の必修エレメントの実施とはならず、必修エレメントの欠如として、難度減点が入る。
- ② ユースのミックス・ペア部門やトリオ部門、グループ部門での必修エレメントの実施は、メンバー全員で同時に同じ必修エレメントを連結なしで実施しなければならない。
 - ☆ ユース 1 グループ部門でメンバー全員が B102 ストラドル・サポートを同時に連結せずに実施、あるいは、メンバー全員が B104 ストラドル・サポート・1/1 ターンを同時に連結せずに実施した場合には、メンバー全員の落下がなく、難度エレメントの最低条件を全員が満たしていた場合には、評価点が与えられ、難度減点はなし。
 - ☆ ユース 1 グループ部門でメンバーの何人かが B102 ストラドル・サポートを実施し、他のメンバーが B104 ストラドル・サポート・1/1 ターンを同時に実施した場合には、「メンバー全員が同じ必修エレメントを実施していない」として評価点は「0.0 点」だが、必修動作の欠如にはならないので難度減点はなし。
 - ☆ ユース 2 トリオ部門で必修エレメントのストラドル・ジャンプをカノンで実施した場合には、落下や難度エレメントの最低条件の有無に関わらず、評価点は「0.0 点」になり、「必修エレメントをメンバー全員が同時に実施していない」として難度減点「1.0 点」が入る。
 - ☆ ユース 1 トリオ部門でメンバー全員が C184 1/1 ターン・タック・ジャンプを連結で実施した場合には、落下や難度エレメントの最低条件の有無に関わらず、評価点は「0.0 点」になり、「必修エレメントを連結で実施している」として難度減点「1.0 点」が入る。

3. 「ジュニア・男女混合シングル部門の規定演技」についての確認

- ① 「倒立」の実施は、仮に倒立前転の実施がなかった場合でも、明確な倒立動作を選手が実施していれば主任審判員が「1.0 点」を加点する。

以上